第１４期千代田区生涯学習推進委員会議　第２提言書

千代田区の特性を踏まえた生涯学習（区民講座）のあり方

～ちよだ生涯学習カレッジについて～

Ⅰ　はじめに

第 14 期生涯学習推進委員会議では、いま一つの課題として、生涯学習社会を支える区民講座について協議を重ね、テーマを「千代田区の特性を踏まえた生涯学習(区民講座)のあり方」とし、その重要な役割を担う「ちよだ生涯学習カレッジ」(ちよカレ)について検討した。

この報告書の背景にあるのは、「生涯学習における区民講座の役割」の意義や役割への問題意識であった。本問題に関していえば、生涯学習推進委員会議においては、これまで、準備段階的なものを含め、3 回の検討がなされてきた。すなわち、平成 24（2012）年 4 月から平成 26（2014）年 3 月にかけて、「学びを紡ぐ新たな仕組み」をテーマに、各種・各所の学びの機会を縦横に紡ぎ、千代田区における生涯学習の中核的な役割を担う場所として、（仮称）生涯学習大学の創設を提言した第 9 期、平成 26 年 4 月から平成 28（2016）年 3 月にかけて、第 9 期での上記提言を踏まえ、「(仮称) 生涯学習モニターコース」を実施して大学創設へ向け入念な準備・協議を行い、正式名称を「ちよだ生涯学習カレッジ」と決定し、基本構想および方針等を定めた第 10 期、平成 28 年 4 月から平成 30（2018）年 3 月にかけて、「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」をテーマに、平成 28 年に開校した「ちよだ生涯学習カレッジ」の 2 コース目のあり方と卒業生の展望についての提言を行うとともに、ネットワークづくりの展望・課題について検討した第 11 期、といったものである。

そのうえで、生涯学習カレッジの「基本理念」にも見られるように、「学び続けることが欠かせなくなる社会」において、その十全な機能の発揮はいっそう意味を増すものとなってきており、不断の検討が求められる。本委員会には、生涯学習カレッジの創設時から係る委員も複数おり、これまでの蓄積や新たな知見を交えて、多角的に論点を提示し合えたことは、意義を有するものであった。以上のような経緯を踏まえて、本提言は、考察の視点として、以下の 3 つの柱を設定している。すなわち、１．生涯学習における区民講座の役割、２．千代田区に特化した区民講座～ちよカレについて～、３．今後もとめられる生涯学習（区民講座）のあり方、である。

Ⅱ　生涯学習における区民講座の役割

（1）生涯学習・社会教育の基本的な役割

令和４年８月「第 11 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」は、「全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向けて」という副題を付して取りまとめられている。これによると、これからの生涯学習・社会教育が果たしうる役割が次のように整理されている。

「生涯学習」は、「一人一人がより豊かな人生を送ることができるよう、個人の自発的意思に基づいて行うことを基本として、生涯を通じて行うもの」であり、「いわば個人の人生を支え、自己実現を図る上で、重要な役割を果たすもの」である、とされている。

一方、「社会教育」は、「地域コミュニティの構成員である住民が共に学ぶものであり、地域づくりの営みという性格を強く持って」おり、「住民自身が主体的に学ぶ意思を持ち、教え学び合う当事者となり、その学習の成果が地域における活動に還元されるような循環が社会教育において生まれることが期待される。」また、「学びを通じて＜人づくり・つながりづくり・地域づくり＞の循環を生むという、従来から社会教育が担ってきた機能が重要視されている点に改めて着目するべきである。」とされ、持続的な地域コミュニティを形成する上で住民自治を支える「社会教育」は社会全体の基盤になると強調されている。

従って、教育基本法第３条に示されている「生涯学習社会」※1 は、「個人の人生を支え、自己実現を図る上で、重要な役割を果たす生涯学習」と「学びを通じて＜人づくり・つながりづくり・地域づくり＞の循環を生む社会教育」の両側面によって基本的役割が担われているものと示されている。

※1：生涯学習の理念とは「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会、すなわち、生涯学習社会の実現が図られなければならない」（教育基本法第３条）こととされている。

こうした基本的な役割に加えて今後重要になる役割として以下が掲げられているが、ここでも個人の自己実現はもとより、社会教育的側面が強調されている。

◯ウェルビーイングの実現
◯地域コミュニティの基盤としての役割
◯デジタル社会への対応を含む社会的包摂の実現を図る役割

例えば、「ウェルビーイングの実現」では、「個人」に着目するだけでなく、その個人の家族・友人をはじめ日常的に関係を持つ「他者」、その個人が住む地域・国といった個人が置かれている「場（文化・環境）」に着目することが重要である。」とされ、更に「地域コミュニティの基盤としての役割」では、「生涯学習社会の基盤となるのは、個人の成長や自己実現のみならず、地域社会の発展も含めたウェルビーイングの実現を支える地域コミュニティであり、個人を支える場と場を支える個人の相互作用の循環が重要である。」とされている。

（2）千代田区の生涯学習に関する施策

基礎自治体である千代田区での生涯学習に関する施策は、平成 27 年 3 月『ちよだみらいプロジェクト』（第 3 次基本計画 2015）において、「施策 16：生涯にわたり自主的な学習・スポーツ活動ができるまち」とし、施策目標として「28：区民が自主的に学習活動に取り組み、また、スポーツに親しめる環境づくりを進めます」が位置づけられている。

具体的な取組として、（仮称）生涯学習大学の創設、講座・講習会の充実、人材育成・派遣制度の充実、新スポーツセンターの整備、区立図書館サービスの充実、が掲げられた。この内、「（仮称）生涯学習大学の創設」が、平成 28 年 10 月「ちよだ生涯学習カレッジ」（以下、ちよカレ）として開設され現在に至っている。

なお、令和 5 年 3 月『第 4 次基本構想』では、生涯学習に係わる事項として、分野別将来像「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」が掲げられ、具体的には、「生涯にわたり学びやスポーツに親しむことで、充実した人生を送れるようになっています。」「伝統や歴史、文化芸術に触れ、受け継ぎ、学んでいくことで、心が豊かになっています。」などの将来像が描かれており、これまでの方向性を継承しつつ、より具体的な施策展開が図られる予定である。

（3）生涯学習施策における「ちよだ生涯学習カレッジ」の位置付け※2

今後、千代田区における生涯学習に関する施策を考える上では、「個人の人生を支え、自己実現を図る上で、重要な役割を果たす生涯学習」と「学びを通じて＜人づくり・つながりづくり・地域づくり＞の循環を生む社会教育」との両側面に留意する必要があり、その役割を担うのが「講座・講習会の充実」や「ちよだ生涯学習カレッジ」である。とりわけ、国（中教審）が強調するように、地域コミュニティの課題への対応策として生涯学習と社会教育の連携は欠かせないものと考えられ、この意味で「ちよだ生涯学習カレッジ」は、国の「中央教育審議会生涯学習分科会」が提示する社会教育的な施策方向に呼応する役割を担っているものと考えられる。

※2：「ちよだ生涯学習カレッジ」の基本理念。「ちよだ生涯学習カレッジは学びで人と地域をつなぎ、グローバルとローカル、社会と個人の交流の場となることをめざし、学びを地域に還元し、「これからの千代田」を担う、社会貢献に積極的な人材をサポートします。生涯学習によるまちづくりやそのプラットフォームとなることをめざします。」

Ⅲ　千代田区に特化した区民講座　～ちよカレについて～

（1）ちよカレ設置の背景

生涯学習施策の拠点である九段生涯学習館は文化芸術講座、ちよだ生涯学習カレッジ、サークル活動の支援などの施策を指定管理者制度により運営実施している。

このうち、「ちよだ生涯学習カレッジ」事業は、第 10 期の生涯学習推進委員会議提言「生涯学習カレッジの基本構想と方針」を受け 2016 年から実施され、これまでの 10 年間に 6 期、延べ約 100 人が受講する主要な事業となっている。

創設時の理念は「地域で活躍できる」コーディネーター人材の育成を目指したものであった。

＜基本理念＞

◯東京の中心地「千代田区」は江戸以来の歴史・文化を豊かに継承しつつ、さらに新しく変化し続ける国際都市です。この変化に対応し、学び続けることが欠かせなくなる社会では、大人が自ら学び、同じ目的を持つ仲間を見つけ、仲間とともに学び合い、一緒に何かを創る場が必要になってきます。学びは、コミュニティ自体に課題解決能力や新しい価値を生みます。

◯ちよだ生涯学習カレッジは学びで人と地域をつなぎ、グローバルとローカル、社会と個人の交流の場となることを目指し、学びを地域に還元し、「これからの千代田」を担う、社会貢献に積極的な人材をサポートします。生涯学習によるまちづくりやそのプラットフォームとなることをめざします。

（ちよだ生涯学習カレッジ HP）

（2）ちよカレの現状と課題

①講座内容

ちよカレは創設第 1 期（2016～2018 年）から第 4 期（2019～2021 年）までは「学びと地域のコーディネーターコース」で地域課題の解決を担える人材育成を想定した講座を提供してきた。これに並行して第 3 ～ 4 期には「千代田マイスターコース」が設けられた。第 5 期（2020～2021 年）から「地域デザインコース」に名称及び講座内容が変更され、受講期間も 2 年から 1 年に短縮し、現在第 7 期を実施している。

＜地域デザインコースの狙い＞

◯千代田区を学び「コミュニティの魅力を知る」

◯生涯学習意欲を高め「自分の可能性を知る」

◯地域活動の実践につなげる「自分の可能性とコミュニティの未来をデザインする」

講座は 1 年間に月 2 回程度、九段生涯学習館で行われており、講師はテーマに応じて大学教授ほか NPO、地域活動の実践者が招かれ、座学だけでなくワークショップ、フィールドワークを含めた充実した内容となっている。講座内容は創設以来各期それぞれに時代の話題を捉えた細かな内容の変更はあるが、大枠としては狙いに沿った流れで編成されている。

＜第 7 期講座の例＞

A　自分の可能性を知る

・交流と協働
・生涯学習の現代的意識を考える
・ウイズコロナと DX 時代の学び
・学びの意味とその持つ力
・私の生涯学習体験を語る
・メディアの発達と個人学習の展開
・体験から学ぶ本業とプロボノの相乗効果

・現代社会とコミュニティの意味
・学び直しでキャリアを創る
・大人の学びと学習資源としての経験
・お互いの経験を語り合い、聴きあう
・文化・多文化の意味
・共有・共感・共創がもたらすもの
B　コミュニティでの実践を知る
・ホスピタリティと場のデザイン
・グラフィックレコーディング
・フィールドワーク　見学
・フィールドワーク　報告会
C　コミュニティの魅力を知る　選択５回以上
（ちよだの歴史とまちの魅力を知る）
・ちよだのまちの成り立ち
・ちよだのいいとこ探し
・ちよだのまちづくり　はじめの一歩
（ちよだをめぐる自然環境を知る）
・ウォーカブルなまちづくりの最前線を知る
・多彩な野鳥と緑の効用から都心を見つめ直す
・江戸以来の水辺文化の成り立ちや今後を考える
（ちよだの伝統と文化を知る）
・遊び学びのし掛け　新しい観光スタイル
・地域芸術祭によるアプローチ
・明治維新から戦後まで
D　自分の可能性とコミュニティの未来をデザインする
・これまでの講座のまとめと振返り
・ウェルビーイングでデザイニング
・デザイニングワークショップ①②

②受講者

事務局が行った受講者へのアンケート調査（別紙）によれば、発足から第６期までの入学者総数は約 153 人、卒業者 112 人、毎期 20～35 人程度の入学者があり、平均 85%が卒業している。

年齢層は、50 歳代がもっとも多く、在住者、在勤者が半数ずつ、男女別にはやや女性の方が多い。受講の動機、講座に求める期待は、「千代田についての学び」、「地域活動へのきっかけ」、「思いや考えを共有できる仲間との出会い」を理由とする人が多く、自分の関心事の学習を通じて、仲間を増やし、その活動で地域に関わっていくという道筋が伺われる。

各期の定員 30 人と少人数であるが定員割れ生じている。定員に満たない点は課題と認識されてはいるものの、講座への参加が仲間づくりという側面もあることから受講者数は多すぎても関係づくりが難しくなる。

③卒業後の活動

（ちよカレサポーター）

学習成果をコミュニティで活かす支援として、卒業した受講者に「ちよカレサポーター」への登録を勧めている。ちよカレサポーターは、カレッジを盛り上げていく卒業生スタッフで、受講者のクラスチューター役やちよカレの各種委員会・イベントなどに、ファシリテーター役として参加してもらうもの。卒業後もちよカレ生のつながりを活かせる同窓会企画など、ちよカレ生同士をつなぐ役割が期待されている。生涯学習団体からの求めに応じてコーディネーターとして９名が登録している。

（生涯学習人材バンク登録）

文化芸術、スポーツ・レクリエーション等、区民が行う生涯学習活動を支援する目的で人材バン

クに登録を勧めている。企画した講座を九段生涯学習館で受付、選考を通過した企画を「人材バンク活用講座」として開催している。講座の内容はバンクに登録している内容で、講演形式だけでなく交流会や、作品の作成、野外散策形式など柔軟な企画が可能となっている。

（区民自主企画運営講座）

在住・在勤・在学者5名以上で構成する団体を対象に九段生涯学習館で募集している。企画が選考を通過すれば「区民自主企画運営講座」として開催できる。申請団体が講師となることも、講師派遣を依頼して実施することも可能で、講師謝礼金の助成、区広報、掲示板へのポスター掲載で区民を対象に募集することができる。

（その他）

千代田区生涯学習連絡会、生涯学習施設、関係機関と相互連携し、千代田区で公募するイベントや会議委員の募集などの事務局が提供する情報に応募することで、卒業後に行政会議体委員、ボランティア・コミュニティ活動に関わることができる。これまで延べ67名が参加している。

Ⅳ　今後もとめられる生涯学習（区民講座）のあり方

（1）ちよカレの設置目的と効果の検証

提言１：設置目的や今までの成果を検証するため、区・事業者・利用者（九段生涯学習館利用者、ちよカレ生、ちよカレ卒業生を想定）の３者間で検討会を行うことを提言する。

・第二分科会では、ちよカレのあり方を主題に議論を進めてきたが、設置から 10 年を経過した節目でもあることから、当初のコンセプト、講座の狙いに効果があったのかどうか等を振り返り、もう一歩踏み込んだ検証が必要ではないか。
・現在の講座内容は、コーディネーター育成を軸に、千代田区のことを学び、自分の学びを高め、どのように地域で活かせるかという構成となっている。ちよカレが設立当初に描いていたコンセプト「地域で活躍できる人材、コーディネーター」が果たして育っているのだろうか。受講者からは、仲間を広げていく場にもなっているという評価はされているが、そもそもコーディネートスキルを学びたいというニーズがあるのかどうか、逆に学習成果を活かせる場があるのかどうか検証が必要である。
・費用対効果や運営状況も踏まえて検討を実施する予定である。

（委員からの意見）

社会教育と生涯学習

・基本的には社会教育、かつては公的社会教育。そこでは公民館であったものが、生涯学習センターや、生涯学習の概念が入って来て大分変わってきたのだと思う。いわゆる市民大学、区民大学の発想の原点というのは、自由大学。長野の自由大学に発想の原点があった。だから指導者も学習者である、学習者による指導者養成である。それがいいかというと、講師の質保証というところで課題がないことはない。ちよカレの場合は、公的社会教育と、シブヤ大学みたいな自由大学的な発想のちょうど中間にあって、非常に曖昧さがある。そこのところは、公的社会教育の範疇に戻すかどうか。
・公共性はどうなのだろうとか、地域貢献とはどういうことなのだろうとか、あるいは知の循環とはどういうことなのだろうという、ベースとして通底する生涯学習の成果と人材をどう地域コミュニティの中に戻していくか、その辺の意識が必要。
・ちよカレの創設時の「地域で活躍できる人材を育てる」という論点が起点となってちよカレができた。最初に決めた方向性がきちんと検証されているか疑問がある。例えば一つの指標として、最近は７期も含めて定員割れしている要因が検証されているか。当初の狙いに即してどんな効果があったのか検証される必要がある。そこが少しでも改善される方向であれば良いが、そうなっていないのではないか。

・一旦立ち止まって検証の機会を持っていただきたい。卒業生の皆さんが一同に会して、自分がちよカレで学んだことがどう生きたのか確認しつつ、今後どのようなちよカレの方向性が望ましいか、意見を聴取して整理することが重要ではないか。なぜそう考えたかというと、あまりにも費用対効果が悪すぎるからだ。

育てるべき地域人材・コーディネーターとは

・カルチャーセンターではなく、区が税金を投じて実施される公共性のある施策の一環として何ができるか。「どのような場面で活躍したら良いのか」という出口が見つからないとアプローチの議論につながらない。

・当初の理念が、「千代田区の課題に対して取り組む人材を輩出する」とすると、どのような課題に対する取り組みなのか。個人的には「コミュニティ」の問題、町会における担い手不足、高齢化、参加率の低下等の共通した課題だと思う。「コミュニティ」の課題認識を有していて、新たに人口が増えてきたときにマンション住民と旧住民との交流課題が続出しており、これをコミュニティの中で解決していく、それを担えるのが育てるべき地域人材だと思う。

・開講の目的が「学びと地域のコーディネート」であることは共通の認識としたい。これをどう具体化していくかという方法論の問題がある。

・「学びと地域のコーディネート」という目的設定から既に 10 年経っており、コロナ禍があり、デジタルツールの進展があり、コミュニティの仕組みも変わってきており、「コーディネーター」になりたいというニーズがないのではないか。それ故、受講生が集まらないのではないか。仮説ではあるが、その点は問い直す必要がある。

・ちよカレの出口のためには、知る部分もあるし、方向性を検討する部分もあるし、それらをコンテンツに盛り込むことになる。「コーディネーター」とは何なのか、役割、イメージがまとまっていないのではないか。求められている「コーディネーター」とは何か、もう少し具体化、共有化できると良い。

コミュニティとどう関わるのか

・コミュニティを作ると言っても中高生向けの居場所を作る方々、多世代で作りたい方々、子育て世代で作りたい方々、あなたなら、どのコミュニティづくりに関われるか、という提示の仕方をすれば良いのではないか。「コミュニティをつくる」「コミュニティに繋げる」と言った観点が重要。ただ、上から目線ではなく、自らどういうコミュニティを求めているか、知人がこういうコミュニティが欲しいと言っている、という地域に密着した視点が重要。

・「コミュニティ」という観点とは別に、それぞれの方の得意分野を活かす方向での「コーディネーター」があっても良いのではないか。

・「多様な区民の学びにつながる人材育成」という点が重要と考える。手がかりとして「町会」はよい柱となると思うが、その際に千代田区の特徴、公共性をベースに据えつつ「コーディネート」を丁寧に確認していくことが重要。10 年の流れ、報告書の積み重ねもあるので、それらを活かすことにもなる。

区全体としての生涯学習機会を

・千代田区にある生涯学習施設は活用されているのか。人材バンクは九段生涯学習館でしか活用されていない。区民はもちろん企業の方にはまず分からない。区の出張所などいろいろ施設があって、みんな使えるが、それぞれがばらばら。生涯学習は区でやるのだから、まず区民も住

民も勤めている方も含めてどうあるべきかということをよく考えていただいて、その中核として例えば九段生涯学習館をどう運営するか。

・ベースとしての生涯学習があって、ちよカレはその中核ということなのだと認識している。もちろん昼間人口あるいは千代田区に勤めている人のことも含めてという部分が、ベースとしてあると思う。

・ちよカレを含めて生涯学習施策全般に千代田区の特性を活かしてほしい。昼間人口や企業のリソースをもっと活用できるのではないか。社会貢献や地域貢献、ボランティアに取り組んでいる企業も多くあり、連携した生涯学習事業ができるのではないか。夜間人口だけでなく昼間人口に向けた施策についても検討してほしい。

・日比谷図書文化館のカレッジもいい内容をやっているので区が全体を俯瞰してつないでいくことを考えてほしい。サークル活動とちよカレのつながりとか、中央区の区民カレッジはそういう部分では全体を一体化してやっている。

・区のコミュニティにかかわる政策があって、それを解決するための生涯学習、人材の育成を目指すとしたときに、ちよカレはどうなっているのか、という話だとすれば九段生涯学習館そのもの全部を取り込んでカレッジにすればいい。

（2）講座内容について

提言２：講座内容の検証、見直しを実施することを提言する。

・設置目的の検証に応じて、講座内容についても検証を行う。区民がどのような学びを求めているのか改めて調査し、これに対応した講座に見直していく。少人数による通年講座のメリット・デメリットを検証する。あわせて企業人材や企業のリソースとの連携についても模索してほしい。

（委員からの意見）

・若い方々にちよカレに来てもらうには、環境問題やエネルギー問題、少子化問題など、具体的な社会課題に取り組むことを通して、自分の将来に役立つ、つながりができる、といったことが重要になる。若者の欲求を満たし、千代田区の企業に関係し、「勉強したい」「人とつながるルートがある」等をベースにしていけばちよカレでも若い方々を呼べるのではないか。

・私がちよカレに入った動機は、町会の役員になって「コミュニティ」の課題があるので、解決のヒントになれば良いと思ったからだ。ちよカレで学んでみて、これまでやってきたことは間違っていないと認識できたことが大変良かった。私は町会長になったが、ちよカレで学んだことも役立っており、良いところもある。

・受講者への魅力になっていないことが定員割れの要因。

・コミュニティ総務課では、いろんな活動をしているグループを紹介しながら交流の場を設け、コミュニティの活性化を図る役割を担っている。一方、生涯学習・スポーツ課は、「人材育成」

の役割を担っているのではないか。どういう人材を育成するのか、はっきりさせた方が良いと考える。
・個人的には「町会運営を担う若手を育てること」と考えている。108 町会あるので、一人ずつ学んでもらえば 100 人の学生が来る。
・難しいのは、町会と多様なボランティア団体とをどうコーディネートしていくかという点。具体的イメージとして、たとえば、町会の中堅を担う方々にコーディネーション力、コミュニケーション力などについて学ぶ場をちよカレが提供することがあっても良いのではないか。
・ちよカレに入って「まち歩き」を始めたわけではなく、元々まち歩きをやっていたので、もっと仲間を増やしたいと考え、同じような意識を持った仲間とつながりたいと思いちよカレに参加した。個々人が行っている活動の位置付けをちよカレで明確化し、具体的活動に繋げることが重要。

（3）受講者の拡大に向けた情報発信

提言３：多くの方に受講してもらうため、PR 方法の見直しを行うことを提言する。

・定員割れの状態は、内容に魅力がないからなのか、ニーズに合ってないからなのか、情報の発信が不足しているからなのか。受講する側にとっては充実した講座内容ではあるが、定員 30 人で年齢層が中高年に偏っているのが現状で費用対効果を検証すべきである。ホームページや SNS での情報発信はしているが、約 90 万人の昼間人口に向けた情報の発信を行い、学びの入口を広げる取り組みを行ってほしい。

（委員からの意見）
・生涯学習・スポーツ課が関わって広報をしたり、活動紹介をしたりというところをもっと深めていただいた方が良い。
・事務局の魅力の発信の仕方に問題があるのではないか。最近は新住民も増えて意識の高い人が増えているので、そういう人を巻き込むことはできないか。
・受講者に 50 代が多いのは地域との関わりがなかった人がゆとりが出てきて社会に参加したい時期だから。そこが核となって若い人など多世代に広げることはできる。
・ちよカレを卒業したことがバリューにならないので、人を誘いにくく広がらない。
・生涯学習は九段生涯学習館の運営だと思っていた。どのように発信しているのかも検証してほしい。講座もそのときだけで終わらないで、ちよカレそのものが発信力をもつことが大事だと思う。
・募集して人を集めることが難しいのはわかる。結局は口コミで集めるしかないので、これまでの卒業生 100 人が声をかければ集まるのではないか。サークル活動も 500 ある。どうしてそうしたところとの連携ができないのか。誘う努力をしていないのではないか。
・マスコミで取り上げられたという効果があり、ちよカレがあったのでこうした事が実現できた、と示すことが重要で、それがあって人を呼べる魅力になるのではないか。

・広がりということに関しては、応援するということ、やる気が出てくるようなシステムというか、そういうものが組み込まれていないのではないか。もっと広がりを持って浸透させたいので、そういうための予算と応援の形をもっと組み込んでほしい。
・町会というのは住民の組織で、残る 90 万人の方々がどのように生涯学習の恩恵を受けているかというイメージが全くない。地域で活躍できることが、結局千代田区の会社に勤めていてよかったという 90 万人を増やすことでもある。
・情報伝達のやり方というのを、必要であれば大企業には直接言ってもいいと思う。防災に関しては防災訓練とか、食料を備蓄することを実施している大学も地域で連携している。
・きっかけで面白いなと思えば、そこから入って来られる。そのきっかけの入口としての面白さはあるので、情報をどうやって伝えていくか。あるいは逆にこういうのを提供してくださいということを伝えていく。そのコミュニケーションをベースにしていかないと、生涯学習は広がらないのかなと思う。
・千代田区全体を見て、もっと発信すれば若い人、企業の人に見てもらえるのでは。あるいは企業からもそういうプログラムをもらって、こういうのがあると見せてあげる。そうすると、「こういうプログラムがあるのなら行きたい」となる。日比谷図書文化館でもこういうのをやると分かると「行きたい」となる。そういう情報が、今の商業ベースではなくて、千代田区の生涯学習館で登録すれば、それに合った情報が来るなど。何でも投稿するのが良くなければ厳選するようにすれば良い。そういう形で、もっと拡大することは可能なのではないか。

（4）持続する卒業生とのかかわり

提言４：ちよカレを卒業したあとも学びが持続し、学習成果を循環させるための仕組みづくりを検討することを提言する。

・卒業後の活動、学習成果の活かし方は個々の意向によることが基本ではあるが、学習成果を活かす次のステップへ後押しできる取り組みの工夫により、学習成果を循環させる仕組みは重要である。単発短期の学びではなく、ちよカレをきっかけとして、学び続けたくなる取り組みを考えたい。学びの動機は個人の成長とともに変化するし、興味も変わっていく。多様なきっかけを卒業生とのかかわりの中で生み出していけることが望ましい。

（委員からの意見）

学習成果のフィードバック

・７期経ってもいまだに知名度がない。卒業後に活動しているとはいっても同じ人が様々な役割を重複しているので広がっているとは言い切れない。
・ちよカレで学んだことを、どのように還元していくのかという大きな枠組が明確でなく、結果的にどういう形で地域にフィードバックしているのか分からない。区の事業であるから、ただ勉強になってよかったねということではなく、学習の成果、発見した千代田の魅力、学んだこ

とによって生まれた価値を丁寧に地域コミュニティに結びつけ、卒業者総体としてちよカレの評価を上げていく方策を考えてほしい。
・私たちの時は、観光資源や地域資源を調べたり、意見交換したりしたが、これらをまとめることなく終わってしまった。町会の方々に、この地域にはこんな資源があるよ、とフィードバックできたかもしれない。

提案や意見をもとに柔軟に見直し

・委託してしまったら、もう何も言えないみたいなことになってしまうと、意見が反映されなくなってしまう。だからまず反映される仕組みを作ってもらいたい。出た意見が伝わる、あるいは議論できる仕組み。もう委託したから何も言えませんという仕組みは変えていただきたい。
・基本理念は共有する。それが実行されているか否かについて検証が必要。一旦中止して検証するか、継続しながら検証するか。検証結果を推進委員にまた戻して議論する、町会の方々にも入っていただく、といった検証の仕組みをつくることが重要なのではないか。
・見直しを常にしていくことが大切。ちよカレで学んだことが、「ただ勉強になった」ではなく、具体的にどこでだれが何を担っているのか、何ができたのか、といったことを知りたい。
・ちよカレ卒業後は何をしたいのか、千代田区で学んで地域に何を還元していくか、といった目的意識を持ってちよカレが受講されているのか。そうした意識がなければ楽しかっただけで終わってしまい、地域にフィードバックがない。
・生涯学習の効果について必ず見えやすい形でフィードバックをする、という施策は異論がないのではないか。ちよカレの卒業生が多いので、どのような効果があったのかアンケートしても良い。

柔軟な運営

・組織的にはちよカレの事務局も予算もあいまいになってしまって、運営がルーティーン化しているところがある。一旦立ち止まって考え直す方がいいのではないか。時代も変わってきたので、評議会みたいなもので議論することが必要ではないか。
・運営側は卒業生がものいうようになり、色々と意見を言われるのを嫌っているのではないか。評議会をつくっても実効性があるか疑問もある。想いはあるが、それが伝わっていくのか。これは言う側もうまく持っていかないといけない。
・卒業生が町会にこれだけ関わっているのは知らなかった。この人たちと町会の課題を議論する場をもつのも良いと思う。
・ちよカレ第６期で「ちよカレ生からのバトン」という授業の企画募集が、卒業生に対して提供され、選考で２案が採用されることになった。応募して選考会で発表した結果、数件の中から企画が通ったが、選考委員側の選考理由の方向性が一致していないと感じた。また「バトン」という呼称は、渡せば終わりという印象があるが、卒業生と在校生間の連携や繋がりを図るような場となることを期待していた。
・地域に密着した具体的な課題に取り組んでもらいたい。
・卒業生のバトンの仕組みはつくってもらったが、これは自分がやるためではなくて、卒業生への仕組みがあれば良いと考えたからだ。委員と区とカレッジ生が一体になって集まる発言の場があると良い。

・人材育成というより、集まった人たちから何人かをピックアップして次に進みませんかと働きかける、巻き込んでいくことが生涯学習につながっていく。
・ちよカレへの期待が大きい人（創設コンセプトへの想い）とそうでない人、さらに運営事務局の認識のギャップが大きい。仲間で楽しむことは良いと思うが、さらに前向きに発展させたり広げたりしたいという想いとのギャップをどうすれば良いのか。
・自分は３、５、７期を受ける位ちよカレラブで講義も楽しく思っている。資料の活動実績にも８つ関わっているが、人には授業の時間帯や回数が月３回ということもあって勧めにくい面はある。自分の楽しさを伝えていくことも大事だと思う。
・ちよカレ卒業生の支援制度があるので、そこに企画を持ち込んでやっていくのが良いのではないか。これを公的に支援してくれれば自分たちも声掛けしやすい。
・卒業後の活動支援は助成額も少ないし使いにくい。制度があることもアピールされていない。

Ⅴ　おわりに

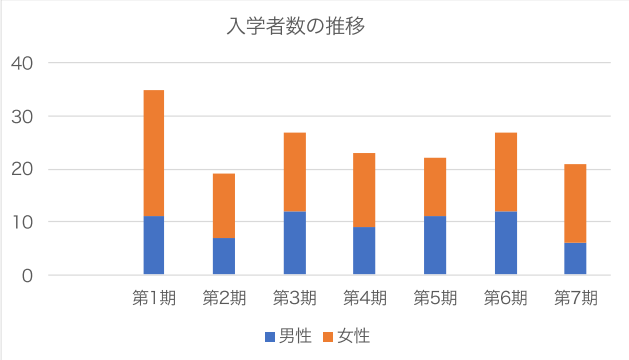
ちよだ生涯学習カレッジを一つの柱とする、千代田区の特性を踏まえた生涯学習（区民講座）のあり方に関する本会議の議論の内容を集約すると、以下の点に総括できよう。

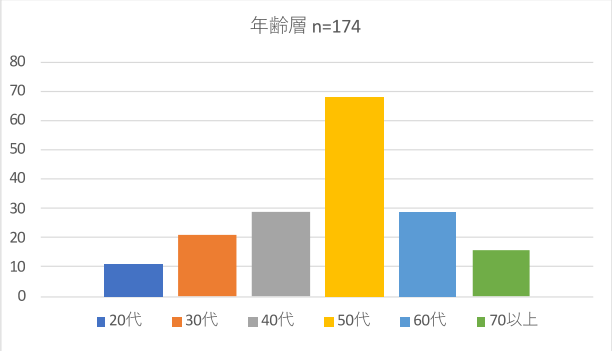
そこでは、まず、「生涯学習における区民講座の役割」を考えた。「千代田区の生涯学習に関する施策」を踏まえつつ、「生涯学習社会」では、個人の人生や自己実現を支える「生涯学習」とともに、「＜人づくり・つながりづくり・地域づくり＞の循環を生む社会教育」が重要であることを確認した。こうしたなかで、「生涯学習施策における『ちよだ生涯学習カレッジ』の位置づけ」を再検討する必要性を共有するに至った。

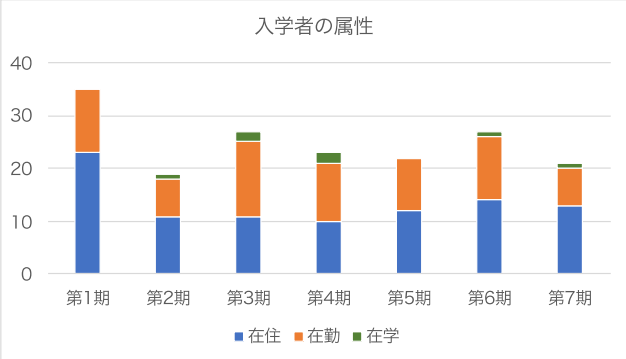
これを受けて、「千代田区に特化した区民講座」としてあるべきちよカレについて、「設置の背景」、「講座内容」や「受講者」「卒業後の活動」にかんする確認をおこなった。これらをふまえ、ちよカレを軸に、「今後求められる区民講座」について、「設置目的」や「講座内容」、「受講者の拡大に向けた情報発信」「持続する卒業生とのかかわり」にかんする基本的な方向性にかんする「提言」を協議し、もう一歩踏み込んだ検証と改善方向を話し合う場を設けることが必要である、という意見にまとまった。そのさい、「日本最大規模のオフィス街」と高い「昼間人口の比率」を有する、「東京の中心地『千代田区』」（「ちよだ生涯学習カレッジについて」：基本理念）としての特性をいかに活かすか、さらに、「公共性、地域貢献とは、知の循環」とはそもそも何なのかといった問いがたびたび議論された。なお、広く深い知見を有する多様な「生涯学習推進委員」の考察を確認すべく、その意見を各所に記載することとしたのは、第一分科会と同様である。

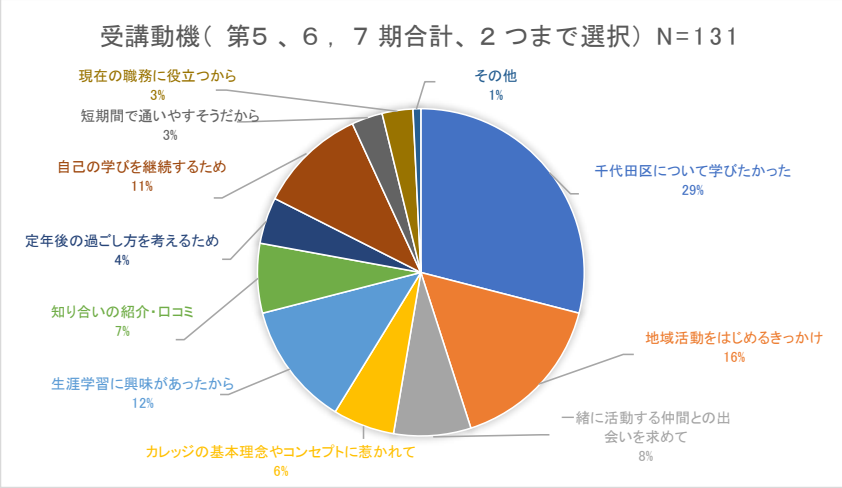
生涯学習の成果と人材をどのようにコミュニティへ戻していくかは、「提言 1」にも通底するところがあると思われる。「提言」にかかわる今後の新たな展開を期待したい。

別紙１　ちよカレ生の属性









別紙２　ちよカレ卒業後の活動実績

■会議体
・生涯学習推進委員会
・千代田区特別職報酬審議会
・千代田区景観まちづくり審議会委員
・千代田区文化芸術プラン検討会議委員
・郊外区有施設の利活用に向けた検討会委員
・千代田区都市計画審議会
・ちよだアートスクエア事業あり方検討会委員
・千代田区健康づくり推進員
・新たな健康づくり推進事業検討委員
・千代田区女性史編纂企画委員
・千代田区女性史編集委員
・千代田区スポーツ推進委員
・千代田区文化財保護調査員
・文化財保存活用地域計画策定委員
・民生児童委員
・千代田区議会政務活動費交付額等審査会委員
・地域包括支援センター運営協議会
・千代田区ウォーカブル街づくり検討委員会
・千代田区地球温暖化対策推進懇談会

■町会活動
・淡路町２丁目町会
・神田消防団
・富士見二丁目町会
・四番町町会
・三番町町会
・麹町出張所地区連合町会地域コミュニティ活性化事業実行委員会
・神田松富町会
・神田佐久間町三丁目町会
・富士見一丁目町会
・神田佐久間町三丁目町会青年部
・神田大和町会
・神田旅籠町会

■ボランティア活動・コミュニティ活動ほか
・英語ボランティアガイド、ガイド養成
・社会福祉協議会「外国人に日本語を教えるスワン」
・オリンピック村運営委員
・かんだ歌宴
・CCxTokyo（千代田で遊ぶ会）
・ちよとも
・ファミリーサポート
・高齢者活動センター「ふれあいクラブ」
・配食サービス「なでしこ」
・「本を贈る」上映会プロジェクト
・ボランティアグループ「すみれ会」
・東京都ボランティアガイドの会
・ちよだラボライブ実行委員
・東京科学博物館ボランティアガイド
・ボーイスカウト新宿 17 団育成会
・家族介護者サロン　ランプの灯
・ふれあいサロンココ
・神保町応援隊
・ちよだリユニオン
・NPO 法人リーブ・ウィズ・ドリーム
・ヘルマンハープ　琴和
・傾聴ボランティア
・LINE 講習ボランティア
・ハンドマッサージ　心ハンド
・シルバー人材センター
・杉並区水泳連盟・水泳教室指導員
・TCGC（東京シティガイド）
・目黒区観光協会
・千代田走友会
・アート活動の仲間
・読書サロン in 千代田
・千代田コミュニティラボ
・ちよだをつなげる女性 30 人
・ちよだボランティアセンター（ボランティアセンター登録）
・文科省土曜学校応援団
・東京都バリアフリー参画

（報告のあったものに限る当時の情報。１人が複数に関わる場合を含む）